

○もも、ぶどう、すももの生産量日本一を維持し、果樹農業を推進するためには、消費者ニーズを踏まえ、本県に適した新品種を安定的に生産していくことが重要となる。

○このため、県オリジナル品種や新たな有望品種について、栽培技術の確立を早急に図り、産地化を推進していくことが急務となっている。

○令和4年度には、県オリジナル品種である「ブラックキング」と「夢みずき」の**出荷量は667tを超えた**。

具体的な成果

○ぶどう「ブラックキング」の生産拡大
普及指導員と営農指導員を対象に栽培管理研修会を5回実施するとともに栽培の手引きを改訂した。
出荷量 令和3年 20t → 令和4年 35t

○もも「夢みずき」の生産拡大
収穫適期の徹底と管理指導に向け、JA等関係機関と現地圃場の巡回を行った。
出荷量 令和3年 278t → 令和4年 632t

○シャインマスカットの安定生産
・果面障害の類似症状（生理障害、害虫被害）の見分け方について、普及指導員の意識統一を図った。
・「ハウスシャインマスカット」については、普通加温および半加温の湿度・温度管理と新梢管理の見直しを行い、栽培者に提供した。

○もも新品種「夢桃香」の産地化
・普及指導員を対象に収穫適期の研修会を実施した。
・県内4カ所の実証圃において、積算温度による収穫期予測と外観による収穫適期の把握、果実品質について検討した。
出荷量 令和4年 32t



普及指導員の活動

○山梨県オリジナル品種ブランド化推進協議会への参画
県オリジナル品種の普及定着、ブランド化・販売促進、また、新品種候補の検討を行うとともに、苗木の配布について支援した。

○もも新品種「夢桃香」の地域における栽培特性の把握
県内4地域に栽培実証圃を設置し、生育状況、収穫時期、果実品質を確認した。

○もも「夢みずき」栽培の現地指導
収穫適期の徹底と管理指導を行った。

○「シャインマスカット」の生産安定
「シャインマスカットの栽培管理のポイント（R5版）」について試験研究機関と連携し見直しを支援した。

○「ハウスシャインマスカット」の加温体系の検討
試験研究と連携し、普通加温、半加温の2体系を見直しを行い、JAを通じて栽培者に配布した。

普及指導員（農業革新支援専門員） だからできたこと

・関係機関と連携して、県オリジナル品種、有望品種等の地域に適した現地実証を繰り返し、栽培の手引きの適宜改訂等を実施したことにより、円滑な普及が進められた。

活動主体	果樹試験場 農業革新支援スタッフ	執筆者	松川 勉
タイトル	果樹優良品種の導入による産地ブランドの確立		

1 活動の背景

もも、ぶどう、すももの生産量日本一を維持し、果樹農業を推進するためには、消費者ニーズを踏まえ、本県に適した新品種を安定的に生産していくことが重要です。

このためには、本県のオリジナル品種や新たな有望品種について、栽培技術の確立を早急に図り、産地化を推進していくことが急務となっています。また、ぶどう「シャインマスカット」も全国的に生産量が増加し、産地間競争が激化していることから、主要産地として、高品質果実の安定生産に向けた取り組みを進めました。

2 活動の経過

県オリジナル品種の普及・定着と「シャインマスカット」の安定生産に向け、各産地を管轄する地域普及センター、試験研究部門、J A、行政各課等と連携を図り進めました。

(1) 山梨県オリジナル品種ブランド化推進会議への参画

J A全農やまなしが事務局となる推進会議に参画し、県オリジナル品種の普及定着やブランド化・販売促進、新品種候補について検討するとともに、苗木の配布や栽培の手引きの作成・見直しについて支援しました。

(2) 県オリジナル品種もも「夢桃香」の地域における栽培特性の把握

地域普及センターと連携し、南アルプス市、笛吹市、甲州市（2ヶ所）の4ヶ所に栽培管理実証圃を設置し、収穫時期や果実品質について検討しました。

(3) オリジナル品種栽培管理研修会の開催

新品種の栽培管理技術の普及に向け、普及指導員とJ A営農指導員を対象に研修会を開催しました。

(4) 「シャインマスカット」の生産安定

今年度散見された果面障害について、普及指導員を対象に研修会を開催しました。

J A全農やまなしが作成する栽培の手引き「シャインマスカットの栽培管理のポイント」の見直しについて支援しました。

(5) ハウス「シャインマスカット」の加温体系の検討

試験研究部門や地域普及センターと連携し、栽培基準を見直しました。



「夢桃香」研修会



「ブラックキング」研修会



「甲斐ベリー7」研修会

3 活動の成果

(1) ぶどう「ブラックキング」の生産拡大

令和4年度は、県内で35tが出荷されました。

果樹試験場において、普及指導員と営農指導員を対象に、房作り、摘粒、着色管理、収穫、剪定について研修会を合計5回開催しました。

栽培の手引きは、整枝・剪定、カサかけ・袋かけについて改訂しました。

(2) もも「夢みずき」の生産拡大

令和4年度は、県内で632tが出荷されました。

収穫適期の徹底と管理指導に向け、JA等関係機関と連携し現地圃場の巡回を行いました。

栽培の手引きは、生理落果対策として袋かけの時期について改訂しました。

(3) もも「夢桃香」の産地化

令和4年度は、県内で32tが出荷されました。

果樹試験場において、普及指導員を対象に、収穫適期の目安について研修会を開催しました。また、県内4ヶ所の実証圃において、積算温度による収穫期予測と外観による収穫適期の把握、果実品質について検討しました。

栽培の手引きは、今年度現地で確認された果肉褐変における注意喚起について改訂しました。

(4) ぶどう「甲斐ベリー7」の産地化

果樹試験場において、普及指導員と営農指導員を対象に、房作り、摘粒、着色管理、収穫、試食検討について研修会を合計5回開催しました。

「甲斐ベリー7の栽培管理の手引きポイント」が新規に作成され、県内の農家に配布されることとなりました。

(5) 「シャインマスカット」の安定生産

果面障害の類似症状（生理障害、害虫被害）の見分け方について、普及指導員の意識統一を図りました。

栽培の手引きは、令和5年度版として改訂され、県内の農家に配布されることとなりました。

ハウス「シャインマスカット」では、普通加温、半加温の2体系について湿度・温度管理と新梢管理の見直しを行い、JAとの連携による説明会において栽培者へ情報提供しました。

4 次年度の取り組み

引き続き地域普及センター、試験研究部門、JA、行政各課等と連携し、県オリジナル品種の普及・定着と産地化、「シャインマスカット」の安定生産に向けた取り組みを支援していきます。